

戦争を許さない女たちのJR連絡会



いのち輝く

わたちのピーストレイン

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13 JR総連内 ☎03-3491-7191 JR 057-4596



女たちの会の15周年記念集会で講演する松崎さん
(2008. 7. 26)

が生涯をかけて闘ってきた平和といのちを大切にす運動を守り、私たちはこれからもしっかりと歩んで行きたいと思えます。感謝を込めて。

追悼 松崎 明さん

昨年12月9日、元JR東労組委員長、元JR総連特別顧問であった松崎明さんが亡くなりました。享年74歳でした。労働運動の大先輩であり、日本労働運動の中で数々の輝かしい闘いの歴史を切り開いてきた松崎さんは、厳しい闘いの傍ら、当会の発足以来、常に温かい目で見守り、励ましてくださいました。この社会にあって、力弱き女性たちが平和運動を担う勇気と決意を持って自ら立ち上がることができたのも、松崎さんの一押しがあったこと。その存在が私たちに与えてくださった心強かったことでしょう。突然の訃報に、信じられない受け入れられない思いが強くなりましたが、松崎さん

松崎明さんを偲んで

いつも暖かい一言に胸打たれ

木瀬慶子（戦争を許さない女たちのJR連絡会 初代代表）

「女たちのJR連絡会」を結成した契機を与えて下さったのは、1993年1月30日の松崎さんの講演でした。

当時は、湾岸戦争の後、PKO協力法が成立し、憲法見直しの動きが活発になっていました。特に山岸連合会長（当時）が「近い将来憲法見直しも」と発言し、労働組合が憲法改悪に積極的に手を貸す動きが顕著になっていました。

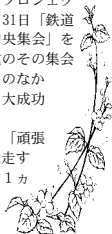
そんな時だったので、松崎さんは「労働組合の産業報国会化の道を許さず、今こそ決断を」と強い口調で話し、「一人ひとりが自分にできる一歩をいま踏み出すべきだ」と訴えたのです。みんな熱い気持ちになって、何かやらなければと考えました。そしてまず応えたのが、東京地本の現場で働く書記の方々でした。当日夜の交流会で、「私たちは今から一歩を踏み出す」と宣言し、すぐにエンジェルというグループを作って活動をはじめました。「731部隊」や「慰安婦」問題をテーマに

したショート劇を創り、各職場で上演活動をしていました。

当時JR総連は、「憲法9条を広める国民会議をつくろう」という大きな構想を打ちだしていましたが、私も、松崎さんの講演に突き動かされて行動をはじめました。そしてプロジェクトチームの一員となって、7月31日「鉄道労働者が訴える憲法改悪阻止中央集会」を開きました。リレートーク方式のその集会では、これまで全くおつきあいのなかった市民の方々が壇上で発言し大成功の集会となりました。

しばらくすると松崎さんから「頑張っているようだから夕食をご馳走するよ」というお誘いがあり、約1ヵ月後、おいしいお酒もいただき、豪華な夕食となりました。

(2面に続く...)



夕食の途中、私は「JR全体の女たちの会を創りたいが」という相談をもちかけました。「やれることはやった方がいい」という松崎さんのとてもシンプルな答えでした。いつも松崎さんは、前向きな発言には、良い悪いは別にして応援してくれまます。それから女たちの会が産声をあげるまでには約半年かかりましたが、女たちの会は誕生しました。女性たちの平和運動は、皆初めてのことで全てが手探りででしたが、市民運動と労働組合の接点をつくる活動となりユニークなネットワークができました。特に2001年米国同時多発テロ事件以

降、「テロとの戦い」というアメリカの侵略戦争に世界の国々が加担するなか、戦争反対のネットワークを作ろうというJRの女性たちの活動はとて貴重だと、松崎さんは何かにつけて支援してくださいました。手作りのミニコミ紙をつくるために、夜おそくまで残っていると、「頑張っているか」とよく声をかけて下さいました。当時、親組合からもあまり認められていなかった会なので、いつもめげそうになる気持ちを励ましてくれたのは、松崎さんのその暖かい一言でした。

「抵抗とヒューマニズム」は、具体的な松崎さんの行動が私たちの胸に響き、私たちの活動の大きな指針となりました。いつも弱者の味方で、時には「寅さん」のように現れ、暖かい配慮がありました。そうして育ててもらったことに、とても感謝しています。そして私たちの心の中には、松崎さんがいつも生きています。これからも女たちの会は、「抵抗とヒューマニズム」を原点に一步一步進んでしよう。



女たちの全国集会后の交流会場で松崎さんを囲んで(2002.9.20)

おいちちゃんのご逝去の報に接し思うこと

12月11日、松崎明さんのご逝去を新聞で知りましした。信じられませんが、とても悲しい気持ちでいっぱいです。縁があり18年前東労組横浜支部の書記だった頃、松崎委員長の話演を聴き「戦争だけは絶対に許したくない!」と強く思いました。でも、どうしたらよいのか判らないでいると「おいちちゃんがついているよ!」との一言があり、それを頼りに、戦争の真実を知るために書記の仲間が集まり、エンジェルを立ち上げ学習し、研修・実践をしながら歩み出しました。また1996年3月21日60歳の還暦のお祝いもエンジェルが中心になりました。以前から「赤いチャンチャッコは絶対に着ない!」と言っていたらしいのに、みんなでサインまでして着せてしまったのです。無理を聞いてくださったように思います。これからも憲法9条を守り広め、松崎さんの遺志を継いでがんばっていきましよう。

最後に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

北見 近藤恭子

「エンジェル」の会の初代表をつとめられた近藤さんから、松崎明さんを偲んで、女たちの会にメッセージをいただきました。



平和集会で近藤日佐子さん(ソプラノ歌手)と一緒に「朝露」を歌うエンジェルの皆さん(1995.7.30)

松崎さんとの出会い……そしてエンジェルの誕生



▲有楽町駅前で有事法制反対を訴える(2003.4.26)



▲イラク戦争に反対するパレードに参加(2003.4.19)



▲95年ニュージーランド反核集會に参加

私は、JR東労組の書記となって23年になります。この、23年という月日のなかで様々な辛い悲しい出来事がありました。昨年12月9日を忘れる事はないでしょう。

JR東労組の創始者であり指導者、そしてエンジェルが一番の理解者でもありました。松崎明元顧問の突然の訃報に接し、今もなお悲しみの気持ちで一杯です。

松崎元顧問は、生涯を労働運動にかけ、平和と民主主義を守るため戦争に反対し、常に弱者の立場に立ち続けられました。

「抵抗とヒューマニズム」を実践するその姿は、私たちエンジェルの大きな目標でした。

そんな松崎さんと初めてお会いしたのは、1993年1月30日、JR総連全国書記研修での講演を聞く機会に恵まれたときでした。「悪魔は天使の顔をしてやってくる」「戦争は平和なうちに準備される」

など、松崎委員長(当時)の講演で、戦前帰帰に向かう否定的な現実を知らされた私たちは非常にショックを受けました。

懇親会も終わろうとした時、このまま解散しては今感じたことが無駄になるとの想いから、元横浜支部書記の近藤恭子さんが、「戦争だけは絶対に許したくない。みなさん!何かやりませんか!」と呼びかけました。そして、ここからJR東労組東京書記の有志が心一つになり、2月11日「エンジェル」が結成されました。

その年の5月、松崎委員長は「ユニオンスクール沖縄研修」のスタートを「レディースコース」として女性組合員を対象に開催してくださり、私

たちエンジェルの仲間も参加させていただきました。その後エンジェルは、沖縄を反戦・平和運動の原点として毎年様々な平和研修を行っています。松崎さんとの勉強会も幾度となく開いていただきました。回を重ねる度に、その偉大さ、存在の大きさを感じずにはいられませんでした。

そんな松崎さんが講演される時の凛とした姿、会場からサッと立ち上がり小走りに壇上へ向かい立つ姿は本当にさすがで、今も目に焼きついて

います。厚かましくも、松崎さんに「いつお逢いしても姿勢が良いです」と話したこともありました。歌もすばらしく、一緒にデュエットさせていただいた事もありました。貴重な体験でした。

不思議なことに月命日の1月9日、松崎さんの夢を見たのです。亡くなったちょうど1ヵ月後です。あまりの驚きにエンジェルの仲

間に話をしました。今でも不思議に思います。松崎さんは常に健康に気をつけていらした方なのに悔しいです。

松崎さん、約束しましたよね。還暦を2回迎えると…。あまりに早すぎる松崎さんの死を認めることがとても残念です。

私にとって松崎明さんとの出会い・JR東労組組織は大きな財産であり、誇りに思っています。生涯私の心に残ります。

この間の熱い想いと人間愛の精神を継承して、出来ることから頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

エンジェル：吉岡奈美子



エンジェル結成18周年に偲ぶ会を行いました (2011.2.11)

ビルマ 便り No.5

ビルマの子どもたちに 英語の本を譲ってください

2月11日、在日ビルマ民主化運動家たちはアウンサンスーチー氏の電話講演会を東京で開催しました。在日ビルマ民主化運動家たちにとって、自宅軟禁から解放されたアウンサンスーチー氏の講演を直接電話で受けるのは、初めてのことでした。

アウンサンスーチー氏は、長い自宅軟禁から解放されて以来、民主化運動やビルマ国内の子どもたちの教育、AIDS患者の保護、その他の様々な社会福祉活動でとても忙しい日々を送っています。そのなかで、祖国から離れているビルマ国民のためにも時間を作り、政治や教育などに関する質問に対して、根気強く説明してくれました。在日ビルマ民主化運動家たちはアウンサンスーチー氏の説く民主化を支持し、その指導に従って行動することを約束しました。

アウンサンスーチー氏の国内活動に対して日本から援助する場合、お金は法律違反になるので受け取れないが、子どもたちのために役立つ本やAIDS患者

への支援などは支援が可能であるとのことでした。

今、ビルマ国内の子どもたちは読書難民となっています。ビルマ軍事政権は国民の知識、技術、思考、教育などを低レベルにさせ、書物や文学活動を厳しく禁止しているからです。ビルマではお金があっても教育的な書物がないうという状況になっています。

ビルマの平和を願って応援してくださいる日本国民の皆様にお願があります。ビルマの未来を担う宝物である子どもたちのために、知識や学問に役に立ち、もう不用になった英語の本をお持ちの方、本を譲っていただければとても嬉しく思います。

日本の皆様への応援はビルマの平和にとって大きな力になります。(英語の本のみですので了解ください。)

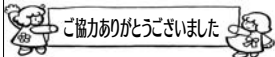
※連絡先

eiethetsanmg@gmail.com

(イテッサン・横浜在住)



JR浦和電車区事件 最高裁要請署名



3,820筆を提出！

12月8日、「女たちのJR連絡会」10名は、美世志会の大淵さんとともに最高裁に要請を行いました。要請では美世志会7名の無実を切々と訴え、ILOの新たな動告が出されたこともふまえて、最高裁に口頭弁論による審理を行い、原判決を破棄し、無罪とすることを求めました。またこの要請の中で、全国の皆さんに協力をいただいた署名3,820筆を最高裁に提出することができました。



▲最高裁の前で (2010年12月8日)



▲9条フェスタで署名集め (11月20日)

「高校無償化」からの朝鮮学校排除に反対！ 政府は速やかに無償化実現を！

許せない！



©HIRUTA

昨年4月に開始された「高校無償化」の対象から朝鮮学校が排除されて以降、すでに一年が経とうとしています。多くの批判のなか、昨年11月には朝鮮学校の無償化実現にあと一步のところに来ていたにもかかわらず、韓国延坪島での軍事衝突以来、菅内閣は無償化手続き停止措置を行い、望みを断ってしまいました。「社会全体であなたの学びを支えます」「家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が、安心して勉学に打ち込める社会をつくるため…」「家庭の教育費の負担を軽減します」とする文部科学省の言葉が本当ならば、日本で生まれ育ち学んでいる朝鮮学校の子ども達に一刻も早く無償化を適用すべきではないでしょうか。この4月からまた新学期が始まります。人権侵害を繰り返す愚を改め、政府は速やかに無償化の原則に立って朝鮮学校を対象として手続きを行うよう求めます。

(S-T)